

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372201024		
法人名	有限会社敬仁会		
事業所名	グループホーム万富の家		
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町万富1908-1		
自己評価作成日	平成30年10月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成30年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

趣味、得意分野を活かさせていける声掛け個々にあったドライブ、外出、食事等で毎日が楽しく生活できるように工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今回の訪問で大きな変化が見られたのは、下欄のサービスの成果(アウトカム項目)の「利用者は戸外に行きたい所へ出かけている」が、昨年は「利用者の3分の1くらい」が「ほぼすべての利用者が」に変化した事と思う。その原因として利用者の入れ替りも考えられるが、利用者・職員共々「嬉しい事や前向きな日常を楽しもう」という雰囲気広がっているからかもしれない。
このホームの優れている所は「認知症の症状がある人に最も有効な薬と思われるコミュニケーション力」ではないかと前から思っていたが、今日もある職員の優れた一場面(歌やゲーム・体操等を組み入れたレクリエーション)が見られた。職員は管理者によく協力し、管理者は職員の思いに心を馳せようとし、それを影から支えている代表者との連携がホームを今日のような楽しい空気になっているのだろう。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールに記載し、また会議等で話す機会を設け、より理念に沿うように仕事をしている。	ホールに記載している理念を、職員は「一人ひとりの思いを活かせる暮らしを」「信頼してもらえ、楽しい日々を」等、それぞれ胸に抱いて日々利用者と相対している。理念の一文である「認知症の方の秘められた力を生かそう」には期待している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントには地域の方にボランティアの協力をして頂いている。また地区の方とも親しく話ができている。	日常的には散歩中のご挨拶や立ち話でお互いに親しくなっているし、イベントでは例えばホームの夏祭りは町内のボランティアの方々に手助けをしてもらっている。その他公民館の文化祭・子供神輿・もちつき大会・クリスマス会その他で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区文化祭(万富公民館)に参加し出品展示見学に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の利用者の活動状況等を報告している。行事などへの参加、ボランティア依頼など地域に密着した活動、交流を行っている。	法人「敬仁会」で近くのGH「万富の郷」と合同で規定通り会議を開催している。地域包括・町内会長・民生委員・利用者家族・その他の参加があると聞いている。そして各種報告の他、参加者から色々な意見が出され、サービス向上につないでいると思われる。	運営推進会議議事録以外の書類からこの会議の取り組みの一端が伺えたり、ヒヤリングで参加の状況が解かるが、議事録に報告だけでなく、参加者の意見や話し合いの状況を記録して次のステップにつなげられるようにして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター担当者に現場の状況を理解していただきアドバイス等協力を得ている。	運営推進会議では包括の担当者との情報交換・共有をよくしており、地域住民の相談に対応したり生活困難者の受け入れに協力する等、市と協力関係を維持している。またホームとして何かあれば、その都度相談するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を中心に職員全員で研修し知識を深め、職員が対応方法を徹底し、自由な生活を支援している。	定期的に身体拘束委員会を実施し、指針の整備をしたり、職員研修を計画し事例検討をしている。玄関等の施錠はしていないので、職員は常に利用者の動きに注意を払っている。心理的な拘束についてもよく配慮している事が記録から伺える。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体にできるあざ、傷を発見したとき職員で確認しあい原因等話し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他事業所の成年後見人の実例を聞き制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時施設の方針などを話し対応可能な範囲について丁寧に時間をかけて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族に月一度「万富の家便り」で近況をお知らせしている。電話、面会時にコミュニケーションを図り意見を頂いている。	このホームでは家族の訪問も多く職員と話し合い要望も聞けるチャンスが多い。「万富の家便り」では担当者が、少し気になる事や今の状態をお知らせしている。遠方の家族や緊急の場合は電話・その他で連絡を取り合っている。	運営推進会議の議事録がリビングに掲示されているが、家族が理解できる伝え方や関心を持って見てもらえる工夫をする事が意見を伝えてもらえる第一歩と思う。家族が自分の身内の事だけでなく、ホーム全体の事等を気にしてもらえる配慮をしていきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員同士コミュニケーションを図り案を出し合っている。	このホームの最も良いと思われる事の一つが「職員間の和と互いの思いやり」と思う。お互いに何でも言い合える仲間となっている上に、代表者とも各人は話し易い間柄と思えるので、意見は受け入れられているだろう。管理者を通して話し合う事もあるそうだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個別の相談を受け向上心を持てるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修で自主的に資質の向上を持ち自己啓発を重点に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換の施設があり連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期入所の方にはコミュニケーションを密にして他入居者と職員との信頼関係が持てるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談には耳を傾け入居者の状態を細かく伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いと利用者の状況を確認し合い、改善に向けた必要なサービス提供に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いを時間かけて聞き理解し苦しみ喜びをスタッフと共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を家族に報告し、入所者、職員の思いを家族に伝え協力関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人など施設へ遊びに来ていただき交流ができています。	家族や親族の方々がよく訪ねてきてくれるだけでなく、近所の人も連れてきてくれる事もある。昔の職場での友達が訪問してくれて話が弾む等、嬉しい出会いもある。また、家族が外出や外食に誘い、かつての思い出を懐かしむ事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う同士で過ごす場面づくり、みんなで楽しく過ごす時間を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供を得て連携に心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の意向を見出している。心身の状況の違いなど個人を尊重した介護法で対応している。	日々の介護記録の中にそれぞれの人の、その瞬間の思いや感情・思わず出た行動・その他状況によってはケアプランにもつながりそうな場面をリアルに表現している。これら、記録の情報が共有出来、ケアに反映している例もあった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当ケアマネージャーより情報を収集し入所してからの対応を検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの性格の中にあわせ無理のない生活を送って頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体、精神状態を話し合い、家族と職員と相談して最善な計画で実践している。	「この生活はやっていけそう。ずっと居れると思う。何かする事があれば言って下さい」と言う○さんの言葉を軸にしながら、認知症による多々の症状に職員はその都度上手く対応しながら、今日も笑顔で洗濯物干しに精を出していた。思いに寄り添ったプランが読みとれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送りのとき心身状況、会話などの情報を伝え介護計画、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化を看護師に相談して、かかりつけ医に連絡してアドバイスをもらい受診、往診、薬受けの代行をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	二ヶ月に一回の運営推進会議で夏祭り、クリスマス会など地区の方々に行事の協力、協働で楽しみを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望されるかかりつけ医になっている。家族の受診同行、また職員も同行することもある。かかりつけ医と連携し適切な医療が受けられるようにしている。	入居前から診てもらっている主治医に引き続き受診や往診をお願いする事を原則としていて、家族の協力も得ながら受診支援をしている。近くの「万富の郷」と兼務の看護師の存在がこのホームの大きな力と安心の基となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護、介護は密に連携が取れて十分な支援ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換はできている。対応可能な段階で早期に退院ができるよう医師と相談する機会をもっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師と家族又は職員で連携をとり納得できる介護、支援をしている。	開設当初からの長いお付き合いをした〇〇さんの看取りをさせていただいて、親族だけでなく介護をした自分達も「本当に良かった」という思いを抱いていると聞いた。今後も色々な条件が整えば関係者と協力し合いながら重度化や終末期の支援をしていこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは掲示し会議や休憩時間も職員同士で話し合いはできている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回入所者とともに訓練している。運営推進会議で地区の協力をお願いしている。	消防署には連絡して定期的に避難訓練を実施している。運営推進会議でも災害対策の会議を実施し、色々な状況への対策を話し合っているし、災害対策の研修会では、ハザードマップの研究・避難場所の確定等している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握し言葉かけに心掛けている。	「一人ひとりを尊重する為には、その人をよく知らねば」という基本的理念を職員はよく理解し対応している。名前の呼び方も、本人・家族に相談しているし、トイレへの声掛け等についても他の人に気付かれない配慮をしている。	以前訪問した時気になっていた居室の小窓に、それぞれ違った可愛いカーテンが取り付けられているのに気付いてほっとした。中の住人が自分でカーテンを自由に動かせるのが良い。小さな配慮が心のケアにつながる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に合わせて要望を聞き職員と相談して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に合わせて要望を聞き職員と相談して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装など本人と相談しながら季節感を考慮している。習慣で化粧している人にはして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を使い献立をたて、食べたいものを聞きメニューに入れている。野菜のしょうやくなど出来る事を手伝ってもらっている。	「皆さんの一番の楽しみは、やはり食べる事」と思うので食事は大切にしている。以前から代表者が作る野菜を「今とってきたんよ」と利用者がしょうやくする。今日の炊事当番の男性職員が作ってくれた昼食の美味しいこと。ほとんどの人が完食した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量など経過記録に記入し把握している。体調に合わせて刻み、粥、ペーストなどで工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入所者の状態に応じた歯磨きの声掛け誘導している。入れ歯洗浄も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄票を付けて個人のトイレサイクルを把握して声掛け誘導して失敗しないよう心掛けている。	ホームの暮らしの中で「出来る事は可能な限り自分で」を重視しているが、排泄の自立支援には特に力を入れている。ほとんどの人が紙パンツにパットで対応している。排泄関連では便のコントロールに注視しており、個々の排泄パターンの把握・情報の共有等の支援で、心地良い日常を続けられるよう努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳と一日の水分摂取をしてもらう声かけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	二日に一回は入浴していただいている。希望も聞き体調に合わせた入浴方法にしている。	色々な事情があって、今は午前中に入浴している。入浴を嫌がる人が居ても無理強いわず柔軟な対応でほとんどの人がなんとか入ってくれる。先程風呂上がりでさっぱりした人が居室からなかなか出てこないと思っていたら、お化粧の最中と聞いた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態に応じ休憩をしていただき、夜間ぐっすり眠れるように日中の活動に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルで把握できるようにしている。用法、用量の変更の際は主治医、看護師、職員と連携支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった得意なことを発揮してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブ、外出したり家族の協力ができている。	今日の訪問中で一番魅せられたのが、この「ほとんどの人が外出を楽しんでいる」という事だ。マクドナルドにドライブツアー・道中が楽しい・懐かしい風景だ・車内でよくしゃべる・気分転換になった等々、職員の感想や利用者のワクワクした言葉の記録が見られた。	外出支援の方法は色々あり、ここでの生活をエンジョイするだけではなく、多くの副産物をもたらしてくれる事も考えられる。一例をあげると、外出計画に家族を誘うと、家族同志の交流になったり、日頃味わえない発見や家族との会話も出来るかもしれない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいもの等訴えがあれば家族に依頼し買ってもらっている。行けるときには職員と一緒に買い物に外出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの訴えがある際は電話を使用してもらっている。家族、友人からの手紙等もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある置物や貼り絵などを入所者と一緒に作成している。	もう少しで百歳という人を筆頭に90歳代が半数という超高齢者仲間ではあるが、皆さんは活発で元気。状況によって時々椅子やテーブルの配置を変えているが、リビングの雰囲気も明るく笑顔が絶えない。こういった空間の中の一人だけの男性も、マイペースで居心地良さそうに感じた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブルを置き、居場所の工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしく写真や置物を飾り心地よい空間、雰囲気作りをしている。	居室の有り様は、様々な状況を物語っている。認知症の病状が激しい方の居室では職員の知恵と工夫と愛情が感じられる。愛らしいマスコットを置いたり自分の作った作品を飾ったり馴染みの物を置いたりして、それぞれ思い思いの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手摺、スロープなどを設置している。		